

論文審査の要旨(甲)

申請者領域・分野 氏名	腫瘍制御科学領域 消化器外科学分野 氏名 鍵谷 卓司
指導教授氏名	袴田 健一
論文審査担当者	主 査 佐々木 賀広 副 査 黒瀬 顕 副 査 若林 孝一 副 査 柴田 浩行 (秋田大学)
<p>(論文題目)</p> <p>Microanatomical profiles on the lymphatic system in the human ampulla of Vater (immunohistochemistry and scanning electron microscopy)</p> <p>(ヒトの Vater 乳頭部におけるリンパシステムの微細解剖学的特徴)</p>	
<p>(論文審査の要旨)</p> <p>十二指腸乳頭部癌 (Vater 乳頭部癌) は、他の消化管癌と比較しリンパ節転移を高頻度にきたす。本研究では、免疫組織化学および走査電子顕微鏡を用い、ヒト Vater 乳頭部リンパ管の分布・構造について特徴解析を行っている。</p> <p>3名の成人男性の解剖体から、Vater 乳頭部と胃体部壁 (比較対照) を採取し、薄切切片を作成した。それぞれの切片においてリンパ管・血管を免疫組織化学で標識して分布密度を定量し、加えて走査電顕による形態観察を行った。</p> <p>Vater 乳頭部のリンパ管密度は層 (粘膜層, 括約筋間層, 括約筋外層) によらずほぼ一定であったのに対し、血管密度は粘膜層において高い傾向が見られた。また、いずれの層においても、血管密度がリンパ管密度を上回った。Vater 乳頭部のリンパ管密度を胃壁と比較すると、括約筋外層のリンパ管密度が胃漿膜下層のリンパ管密度を上回ることが分かった。走査電顕により、Vater 乳頭部のリンパ管は表面平滑な単層性の内皮細胞から構成される毛細リンパ管であることが分かった。</p> <p>本研究により、ヒト Vater 乳頭部リンパ管システムの特徴は、層間を密に結びつけながら、総胆管近位に連続するネットワークであることが分かった。このことは、十二指腸乳頭部癌が容易にリンパ節転移をきたしうる機能的特徴を持つことを示唆している、と結んでいる。</p> <p>本研究はヒトの Vater 乳頭部におけるリンパシステムの微細解剖学的特徴を初めて系統的に明らかにしたもので、十二指腸乳頭部癌のリンパ節転移メカニズムに関する臨床および基礎医学研究において必要な形態学的基盤を提供すると考えられる。よって、学位授与に値する。</p>	
公表雑誌等名	J Hepatobiliary Pancreat Sci (2017) 24:570-575.